Centers for Disease Control and Prevention
月刊CDCガイドラインニュース
vol.259

矢野邦夫
浜松市感染症対策調整監 兼
浜松医療センター 感染症管理特別顧問

「ねころんで読めるCDCガイドライン（メディカ出版）」シリーズなど、CDC関連の編・訳書多数。

結核治療におけるビデオ直接監視下服薬療法

CDCが「結核治療におけるビデオ直接監視下服薬療法の使用についての推奨」[https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/72/wr/pdfs/mm7212a4-H.pdf] を公開しているので紹介する。

直接監視下服薬療法

米国の臨床診療ガイドラインは結核の治療において「直接監視下服薬療法（directly observed therapy, DOT）」を推奨している。DOTは通常、対面式で実施され、患者が抗結核薬を服薬する場面を医療従事者が直接観察する。それに加えて、有害事象を監視し、社会的支援（個人的なつながり、励まし、アドバイス、病気に伴う困難を乗り切るための支援など）も提供している。通常、DOTは、コミュニティまたは臨床現場の相互に合意した場所で直接会う必要がある。しかし、対面式DOTの実施が論理的に困難な場合がある。スケジュールを立てることは、患者の仕事、学校教育、その他の日常活動を妨げる可能性があり、また、DOTのための交通手段の手配が困難なケースもある。コミュニティでのDOTでは、医療従事者が患者宅に毎日出入りすることによって、隣人や同僚から歓迎されない質問を受けたり、患者に汚名が着せられたりすることがある。さらに、悪天候、自然災害、パンデミックの際につねに対面式DOTを実行できるとは限らない。

ビデオDOT

ビデオDOT（video DOT, vDOT）は、ビデオ対応デバイス（電話、タブレット、コンピュータ）を使用して、服薬遵守と臨床モニタリングを促進し、患者と医療従事者のリモートインタラクション（遠隔地にいる人々が相互にコミュニケーションや作業を行うこと）を容易にする。vDOTによって結核治療を受けている患者は、リアルタイムまたは録画にて医療従事者とリモートでやり取りすることができる。

vDOTと対面式DOTの比較

CDCは「治療遵守」「治療完了」「微生物学的解決」について、vDOTと対面式DOTとを比較したエビデンスをレビューした。システマティックレビュー、メタ分析、2022年までの文献検索によると、vDOTは対面式DOTと比較して、治療遵守率が高く、治療完了および微生物学的解決の症例の割合が同程度であることが示された。このエビデンスに基づいて、CDCは結核治療中のDOTの推奨を更新し、vDOTを対面式DOTと同等の代替手段にすることとした。

推奨の更新

服薬しなかったり、治療を中断したりすると、薬物濃度の低下、薬剤耐性の獲得、治療時間の延長、結核治療の失敗、結核の再発につながる可能性がある。これらの理由から、**CDCは結核治療薬を処方されたすべての人に対する標準治療としてDOTを推奨し続けており、今後はvDOTを対面式DOTと同等とみなすこととした。**

考察

CDCの推奨の更新は、vDOTによって観察された服薬遵守率の割合が高く、結核治療の完了率と微生物学的解決率が対面式DOTと同程度であるというエビデンスに基づいている。これらのデータは、vDOTが患者およびプログラムの時間・コストを節約し、DOTに対する患者の満足度を向上させ、対面式DOTが実行できない場合にアドヒアランスを監視する機会を提供することに加えて、患者のケアと治療を継続するためのvDOTの有用性を強調している。vDOTを活用することで、保健所は、リソースを効率的に使用しながら、結核治療を受けている患者の米国の標準治療を満たすための支援ができる。

フォローはこちら！

COVID-19対策を標準予防策に移行していく必要がある。それに関する情報発信のためにTwitterを始めた。皆さんにはフォロワーになってほしい。